

「白日夢」 ★★

2009（平成21）年9月6日鑑賞<ユウラク座>

監督：愛染恭子、いまおかしんじ
原作：谷崎潤一郎
葉室千枝子（日高と不倫中の歯科助手）／西条美咲
倉橋誠一（派出所の警官）／大坂俊介
日高（歯科医）／鳥肌実
日高さゆり（日高の妻）／小島可奈子
宇波弘樹（倉橋の後輩の警官）／坂本真
村井敦子（千枝子の親友）／福永ちな
沼田／飯島大介
露木（興信所の探偵）／菅田俊
2009年・日本映画・80分
配給／アートポート

<タイトルだけで必見と思ったが>

武智鉄二監督、愛染恭子主演の1981年の「本番映画」が『白日夢』。男優は佐藤慶、原作はもちろん谷崎潤一郎だ。当時私は本業の弁護士稼業に没頭していたため劇場で観ていないが、その話題沸騰ぶりはよく知っていた。しかして、当然のように成人映画指定を受けた『白日夢』は、そんな指定を受けた映画としては異例の15億円という興行収入をあげたらしい。

そんな名作が、何と愛染恭子監督でリメイク。西条美咲も大坂俊介も聞いたことのない俳優だが、「こりゃ必見！」と思っていそいそと出かけたが・・・。

<シンプルな1981年版のストーリーは？>

1981年版『白日夢』は、歯の治療のために歯科医院に行った青年が美しい令嬢と並んで治療を受けるが、麻酔注射を打たれたことによって薄れていく意識の中で何ともエッチな白日夢をみるという単純な物語。美しい令嬢を隣に見た青年が白日夢の中でみるのは、佐藤慶演ずるドクトルが愛染恭子演ずる令嬢葉室千枝子を犯し、いたぶる姿。その結果青年がとった行動とは？

1981年版はそんな単純なストーリーの中に、佐藤慶と愛染恭子とのセックスシーン、本番シーンをふんだんに盛り込んでいたため、観客は生唾を呑み込みながらスクリーンを注視したわけだ。

<登場人物が多く、複雑な本作のストーリーは？>

ところが、本作は登場人物が多いうえ、ストーリーもいろいろと複雑。葉室千枝子（西条美咲）は日高（鳥肌実）が経営する歯科医院の助手だが、日高と不倫関係にあり、日高の妻さゆり（小島可奈子）から睨まれていた。他方、倉橋誠一（大坂俊介）は派出所に勤務する警官だが、千枝子から空き巣にあったという電話がかかってきたため現場に赴いてみると、派出所で居眠りをしながらみた夢の風景が。美しい千枝子を一目見て忘れられなくなった倉橋は、以降空き巣被害にあったというアルバムを探す努力を続けるが、その中で見えてきた真実とは？

本作には、千枝子とその親友村井敦子（福永ちな）の顔の整形手術という難しい論点が絡んでくる。夫の不倫相手の女がかつての同級生ではないかと疑った妻さゆりは、興信所の沼田（飯島大介）に命じて千枝子の部屋からアルバムを盗み出させたが、そこから見えてきた真実とは？他方、歯科医との不倫をさゆりに発見された千枝子から、倉橋がセックスの代償に聞かされる言葉は「さゆりを殺して」という恐ろしいもの。今や完全に白日夢の世界に入ってしまった倉橋は、さていかなる行動を？

<なぜこんなややこしいストーリーに？>

本作のストーリーは概ねそんなものだが、愛染監督はなぜこんなややこしいストーリーにしたの？そのため、わずか80分の映画で観客は筋を追うことに気を取られてしまううえ、肝心の（？）エッチシーン、本番シーンの迫力は全然ダメだから完全な消化不良。

白日夢の世界を描くのは難しいが、だからこそ1981年版のように思い切ってシンプルにしなければ。

<夢はあくまで夢にとどめておかなければ>

1981年版で青年がみる白日夢のメインは、美しい女と歯科医とのセックスシーン。その結果やりきれなくなった青年は殺人行為に及ぶのだが、1981年版ではそれもまた白日夢。したがって1981年版では、夢から覚めた青年は治療を終えた千枝子を追うものの、千枝子は何もなかったように青年を見つめるだけ。そんなラストシーンが印象的だった。

ところが、本作はどこまでが夢で、どこまでが現実？それがよくわからない。また、そもそもわからないのは、なぜ倉橋は同じ派出所に勤務する後輩の警官宇波弘樹（坂本真）まで拳銃で撃ってしまうの？こりゃ完全にとぼっちりでは？

他方、やっとさゆりから自由になったと喜ぶ歯科医が今あらためて励んでいる千枝子とのセックスを眺めていた倉橋がイライラしてきたのは当然。そこで倉橋は我慢できずに拳銃を抜いて千枝子を撃つことになったのだが、その後自分の口に拳銃をあてて自殺してしまってどうするの？一体どこまでが夢で、どこからが現実なの？それがわかりにくいのが夢だし、まして白日夢にみる美しい女とのセックスや妄想においてその区別がつきにくいのは当然だが、夢はあくまで夢にとどめておかなければ。